

## REPA 国内再生可能エネルギー施設視察会

2013年6月14日(金)～15日(土)にかけて、山梨県内の再生可能エネルギー施設の視察会が総勢9名の参加を得て実施された。

第一日目は、下記の施設の視察が行われた。




### (1)富士ヶ嶺バイオセンター

富士河口湖町(旧上九一色村)が事業主体となり、資源リサイクル畜産環境整備事業として、平成16年度に運用がスタートしている。現在、24軒の畜産家から乳牛の糞尿が持ち込まれ、メタン発酵処理と発生したバイオガスによる発電、液肥の牧草地への還元が行われている。さらに、水分の少ない糞による堆肥化も合わせて行われている。運転開始から10年が経過し、設備の老朽化もあり、設備の改修と55kW発電機2台による安定した発電の確保が課題になっている。

		
<p>富士河口湖町役場担当者から説明を受ける見学者</p>	<p>処理物受入れ口</p>	<p>バイオガス発電装置 55kW×2台</p>

### (2)若彦トンネル湧水水力発電所

若彦トンネル建設に伴って発生した湧水を利用(河川法、水利権等に該当しない)した最大出力85kWの小水力発電所で、山梨県が管理・運営をしている。平成22年4月から運転が開始され、一定した豊富な水量があり、安定した運転が行われている。県のトンネル工事担当者からの提案で実現した注目される取組みである。

		
<p>山梨県企業局の担当者から説明を受ける見学者</p>	<p>横軸単輪単流渦巻フランシス水車(85kW, 52m, 0.21m<sup>3</sup>/s)</p>	<p>堰により一部を市の水道水として利用している</p>

### (3)米倉山太陽光発電所

山梨県が用地を提供し、東京電力が建設、管理・運営している国内3番目に大きいメ

ガソーラー(出力 1MW)である。約 8 万枚の CIS 系太陽光パネルで構成されている。平成 24 年 1 月末運転を開始し、順調に運転されている。この発電所には、「ゆめソーラー館やまなし」という PR 施設が併設されており、太陽光、小水力、燃料電池、地中熱利用の装置等が展示されており、再生可能エネルギーの導入や普及・啓発、情報発信の拠点になっている。

		
<p>山梨県企業局の担当者から説明を受ける見学者</p>	<p>1MW ソーラーの一部</p>	<p>「ゆめソーラー館やまなし」でエネルギーの勉強出来る</p>

第二日目は、石和温泉旅館協同組合との交流を行った。この交流会には、組合理事長の他、 笛吹市商工会会長、笛吹市産業観光課の職員等 5 名が参加された。REPA から、メタン発酵の事例及び市民による太陽光発電の取組みを紹介した。石和温泉旅館協同組合からは、石和温泉としても環境問題に積極的に取組み、イメージを変えることで温泉を発展させたいとの要望が出された。

	
<p>温泉のエネルギー利用について講演する佐藤代表理事</p>	<p>会議後の集合写真 今後への期待が！！</p>

石和温泉旅館協同組合との交流後、山梨自然エネルギー発電(株)が韮崎市徳島堰に設置し、運用している総発電量 22.7kW の太陽光発電所を視察した。太陽光パネルは、田んぼの土手や小屋の屋根に設置されていた。国内には、多くの未作付水田や耕作放棄地があり、国(農水省)も厳しい条件付きながら農地の転用を認める動きをしている。

		
<p>裏を詳しく調べている参加者</p>	<p>各ブロックに電力計と監視装置が設置</p>	<p>あぜ道にソーラ。水田耕作とソーラ発電のコラボ（ソーラシェアリング）</p>

今回の視察ではメタン発酵施設、小水力発電所、大・小太陽光発電所を見学するとともに、直接、現場の声を聞くことができ、さらに、地元温泉旅館協同組合との交流もあり非常に内容の濃い視察会であった。

(奥村)